

JA安芸



Vol.47

農業振興対策本部
(082) 822-0104

農協だより

URL: <http://www.ja-aki.jp> 平成 22 年 7 月

戸別所得補償モデル対策の申請状況について

平成 22 年 4 月より、戸別所得補償モデル対策の申請の受付が始まり、各地区で申請が行われています。全体的には、加入申請は順調に進んでいますが、まだ対象者が残っていると思われまます。6 月 30 日までの申請期限ですが、5 月末現在の状況を報告させていただきます。5 月末現在広島県全体対象農家 44,423 戸の内 40%が申請しています。広島市では、対象農家 4,915 戸の内 35%が申請しています。

	面積換算値	計画書配布戸数	水稻共済加入	加入申請者
安芸区	164ha	1292 戸	570 戸	213 戸
熊野町	150ha	970 戸	355 戸	205 戸
海田町	18ha	331 戸	42 戸	23 戸
坂町	2ha	18 戸	1 戸	0 戸

「安心！広島ブランド」特別栽培農産物

「特別栽培農産物」とは、農薬や化学肥料を通常の半分以下に抑えて栽培した農産物のことで、瀬野地区の宮原和明様が広島県の認証を取り、2 年目の特別栽培米の実績報告を提出されました。

『特別栽培米における農薬の使用回数は、地域慣行レベルに 21 回の節減対象農薬回数ですが栽培実績は 10 回でした。その内 7 回は殺菌・殺虫剤で、3 回が除草剤です。種子の温湯消毒により 2 回減少しているのと、現在除草剤で 3 回になっていますが、今年 2 回(2 成分)の良い剤が登録されました。(現在管内で試験しています。)最近、カメムシやフタオビコヤガの発生がありますが、病害虫に対しても対応できる見通しができたとお思います。化学肥料使用量については、地域慣行レベルで 8 kg/10a に対して栽培実績で 3.3 kg/10a で行いました。肥料については、有機率 50%~100%まで、種類は豊富で一発剤から 3~4 回に分けて施用するタイプまであり、収穫量はあまり減収することはありません。2 年間栽培して農薬や化学肥料を通常の半分以下に抑えて栽培して広島県の「安心！広島ブランド」特別栽培農産物の認証を取得して栽培することは充分可能だと思いました。』

第23回阿戸花まつり

来る 8 月 1 日(日)午前 9 時から阿戸福祉センターでの開催が決定しました。同時に、JA 安芸切花品評会を開催し、阿戸町を中心に管内で育てられた花が多数展示されます。花を通してお子様からお年寄まですべての人々の「ふれあいの場」になっております。そのほかバザーや朝市など多くの催しがあり、毎年皆様に喜ばれています。ぜひ、お誘いあわせの上遊びに来て下さい。

JA安芸切花品評会出品者募集!

出品受付: 7月31日(土) 10:00~13:00

表彰式: 8月1日(日) 13:30~



目的 本品評会は、花き栽培農家の出荷技術および切花品質を競うことにより生産意欲の高揚と切花品質の向上を図る。また消費者に地場産切花のPRを行い理解を図る。

名称 平成 22 年度 JA 安芸切花品評会

開催場所 阿戸福祉センター

出品規格

- (1) 出品対象者は、JA 安芸管内の花き生産農家
 (2) 出品規格は、原則としては 10 本を 1 束ですが、新テッポウユリ・ヒマワリ
 グロリオサ・宿根カスミ草については、5 本を 1 束とします

表彰

- 組合長賞 特等 1 点、一等 2 点、二等 3 点、三等 4 点
 特別賞 安芸区長賞・(財)広島市農林水産振興センター理事長賞
 (株)花満賞・瀬野川農事研究会会長賞・阿戸町農事研究会会長賞 各 1 点

講習会を行いました!

- 6/3 ススキグループ 管理及び梅雨に多発する病害虫の農薬について説明しました。
 6/4 スミレ会 野菜管理とケイトウ等切花栽培管理の講習を行いました。
 6/7 瀬野女性部 6 月の野菜管理について講習しました。
 6/8 育苗センターにて農業講座開催。果菜類の整枝管理と黒大豆栽培について行いました。
 6/14~18 各地区で稲作講習会を行い、117 名の参加がありました。
 6/15 東海田支店にて野菜栽培講習会を行いました。梅雨から夏にかけて
 圃場管理、夏まき野菜育苗管理及び品種紹介を行いました。



果樹に対する注意報

「平成 22 年度病害虫発生予察情報注意報第 1 号」で果樹全般にカメムシ類が今後予想される発生量が多いと予想されるので注意して下さい。(別紙に詳しい資料を同封しています。)

カメムシに実を吸われると変色、奇形、腐敗、落下等の原因になります。防除農薬としては、スミチオン乳剤、モスピラン水溶剤等、登録・使用方法を確認して防除して下さい。

7月 営農メモ

水 稲

◎幼穂形成期までの水管理 (根の健全化、倒伏防止と茎数の調節をめざします)

「早生品種」コシヒカリ、コノエモチなどは出穂30日前頃(6月下旬~7月初旬)から株元の茎の中に幼穂ができ始めます。中干しを終えたら間断かんがいで根に水と空気を供給します。ガスの発生し易い水田では5日以上滞水はさけるようにして下さい。

「中生品種」ヒノヒカリ、あきろまんなどは最高分けつ期が7月上旬です。圃場や田植え時期によって分けつにバラつきがあり過剰稲から小株稲まであります。過剰稲では早めに強く干し、分けつ不足の稲では軽めの中干しとします。時期は幼穂形成期前(7月中旬ごろ)までです。

◎ 穂 肥

さじ加減や時期で収量(1穂のモミ数、モミの大きさ)品質、食味に影響します。今年は猛暑が予想されるため、穂肥までの葉色の落ちすぎた圃場や、一発肥料においてもつなぎ肥をしたほうが良い場合があります。(平年の品種別出穂期は稲作ごよみを参考して下さい)

品種名	穂肥1の時期	葉色板による判断	施肥量(多木V化成の場合)
コシヒカリ	出穂18日前	3.0~3.5	10~15kg
ヒノヒカリ	出穂24日前	3.5~4.0	
あきろまん	出穂24日前	4.0~4.5	15kg
コノエモチ	出穂24日前	4.0~4.5	

◎病害虫防除 早期発見・早期防除に努めましょう!

予防散布の粒剤体系ではイモチエーススタークル粒剤(いもち病・紋枯病、カメムシ類、ウンカ類など)3kgを出穂5~10日前に散布。但し、コブノメイガやイネアオムシなどが発生した場合にはパダンバッサ粒剤などを散布して下さい。粉剤体系ではパダントレバリダビーム粉剤DL(穂いもち・紋枯病・ウンカ類・カメムシ類・コブノメイガなど)5~10日前に散布して下さい。カメムシ類は山間棚田やイネ科雑草繁茂地の周辺では被害が出やすいので注意して下さい。特に瀬野川筋では最近イネクロカメムシによる被害が拡大しておりますので散見したらアルバリン粒剤などで早めに防除して下さい。紋枯病においても高温多湿で発生しやすく近年増加傾向の病気です。常習地では早めに防除して下さい。リンパー粒剤・モンガリット粒剤(稲こらじ病も同時防除)またはバリダシン粉剤をDL適期に散布して下さい。

果 樹

は別紙にあります。

野 菜

今年は梅雨明けが遅れ中旬頃まで天気が悪い予想となっており、べと病や灰色かび病などが先月に引き続き多いと思われますので注意して下さい。また、降雨が多い場合は肥料が流亡し肥切れになりやすいので樹勢をみながら追肥を行いましょう。

圃場管理

梅雨明け後は気温、地温とも高くなりますので、敷きわらを厚めに施し地温上昇、蒸散を抑える様にしましょう。7月には樹も大きくなり、肥料や水の消費が多くなりますので、晴天が続く様であれば3~4日おきに灌水も行いましょう。なすやえだまめなどでは夕方に畦間灌水を行うと省力となります。また、追肥も14~20日に1回は施し樹勢の維持に努めましょう。

今月播種出来る物

キャベツ、ブロッコリーなどあぶらな科作物が10日頃より、中下旬には抑制きゅうり、抑制スイートコーン、にんじんなども行えます。

キャベツなどは中旬頃は將軍、下旬には湖月など収穫時期がずれる物を2~3回に分けて播種しましょう。

にんじん 播種後から本葉10枚までは極端に乾燥させると発芽不良や短根になりやすいので水管理には注意して下さい。特に梅雨明け後晴天が続く様であれば2~3日おきに灌水しましょう。

スイートコーン 6月下旬頃にキャンベラ90などの晩生の物が播種すると9月下旬頃より収穫できます。この時期に早生種を使用すると樹が出来る前に実が着き良い物が収穫できませんので注意して下さい。

キャベツなどの育苗

高温期の育苗となりますので、培土は肥料が余り含まれていない物を使用し、葉色が薄くなれば液肥を施しましょう。日中は高温となりますので黒の寒冷紗で遮光し、夕方には取り除きましょう。灌水は朝、昼に行い、夕方は徒長防止のため水がやや切れる様管理します。

播種後20~25日程度で10~15cm間隔に仮植し、本葉4~5枚になれば定植となります。

病害虫

梅雨明け後なすやきゅうりではハダニの被害が増加します。ハダニは1回防除だけでは効果が少ないので4~5日おきに3回程度続けて防除すると効果が高まりますが、殺ダニ剤の総使用回数は1~2回の物が多いので、水で葉裏に噴霧器で洗い流す様にたっぷりかけるだけでも密度の低下になります。キャベツなどは育苗中からコナガなどの被害がありますので防虫ネットを使用し薬剤の使用を軽減しましょう。

- ・ハダニ・・・オサダン水和剤25、ダニトロンフロアブル、ピラニカEW、マラソン乳剤、モレスタン水和剤など
- ・アオムシ、コナガ、ヨトウムシ類・・・アフーム乳剤、オルトラン水和剤、デス、トレボン乳剤等
- ・キスジノミハムシ・・・ダイアジノン粒剤5、モスピラン水溶剤など

※農薬はラベルなどを確認後使用して下さい。

7月 営農メモ

果樹

カキ

柿は、7～8月にかけて実を太らせながら、来年実を付ける花芽分化時期になります。充実させた生育をさせないとりっぱな花芽ができません。また、生理落果終期ですので最後の摘果を行います。梅雨時期の排水対策を充分に行い梅雨明け後は急激に乾燥させないように灌水をしてやります。草が生えている場合草刈を行います。病虫害対策は、梅雨時期は炭そ病の防除としてオーソサイド水和剤 80 とスリップス対策にオルトラン水和剤を散布します。農薬の使用については、使用方法を確認してご使用下さい。

富有柿の適正着果量

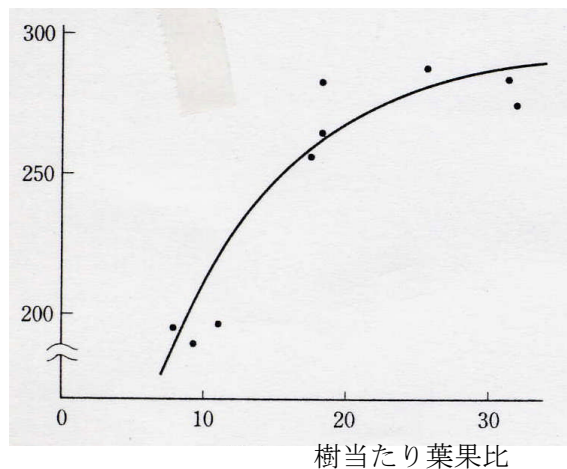
葉果比*の増加に比例して平均果重は重くなるが葉果比がある値以上になると果重の増加率は鈍る。(第1図) 好適な葉果比は20年生までの若木で15枚、20～40年生の成木で20枚、40年以上では25枚が適当である。結果母枝長と着葉数との関係から、葉果比を20枚として着果基準を示すと、結果母枝長が40cm前後では3果、30cm前後では2果、15～20cmでは1果が適当である。15cm以下の結果母枝は着果せず、翌年の結果母枝に養成するため空枝とする(第2表) (果樹園芸大百科)

*葉果比とは、ひとつの果実を太らせるために確保された葉の枚数。結果母枝とは、今年伸びた新梢に7～8月花芽分化した枝で来年この枝から伸びた新梢に果実が付きまます。現時点では昨年の新梢で果実を付けている枝が付いている枝です。

第1図 樹当たり葉果比が
果実肥大に及ぼす影響
(松本・黒田、1981)

供試樹：12年名富有
粗摘蕾：5月18日
摘果：7月18日

収穫果の平均加重(g)



第2表 富有の結果母枝長と葉果比別好適着果量

結果母枝長 (cm)	新梢数 (本)	着葉数 (枚)	着果数 (個/結果母枝)		
			葉果比15	葉果比20	葉果比25
40	8.4	56.1	3.7	2.8	2.2
30	6.0	40.3	2.7	2.0	1.6
20	3.9	24.5	1.6	1.2	1.0
10	1.8	8.7	0.6	0.4	0.3